

総務常任委員会報告書

会議日時	平成 24 年 6 月 18 日 (月) 9 時 00 ～ 13 時 00		
会議場所	○議員控室 ●委員会室 ○大正総合支所 ●現 地		
出席者数	委員 7 名のうち出席者 7 名		
出席委員	委員長	橋 本 保	委員 岩 井 優之介
	副委員長	下 元 昇	委員 山 岡 義 正
	委員	林 健 三	委員 宮 地 章 一
	委員	下元 真 之	
欠席委員			
事務局		田辺 卓	
説明者	執行部	仲管財課長	陳情者 茅吹手区長山脇文男
		樋口総務課長	
傍聴者			
付議事件	1. 四万十町茅吹手地区における防火水槽設置についての要望書 (24-5)		
	2. 青線を避難路として使用を求める陳情 (24-7)		
	3. 郵便局のネットワークを維持し、通信と金融のユニバーサルサービスを守るために特段の配慮を求める意見書提出に関する陳情書 (24-11)		
	4. 伊方原発の再稼動を行わないことを求める意見書決議 (24-12) 伊方原発の再稼動に反対する意見書採択の陳情書 (24-16) 伊方原発の再稼動を行わないことを求める陳情書 (24-18)		
	5. 女性の政治参加をはばむ衆議院比例定数の削減に反対する意見書 (24-14)		
	6. 南海大震災に備えて、防災・減災・復興に女性の視点を入れることを求める		
	陳情書 (24-15)		
審査・調査	上記陳情で、継続審査になっていた (24-5) については、現地調査を行い地元		
	区長の説明を受け委員会室で審査を行った。その他の陳情については、所管の担当		
	課長の説明を受け、各委員が別紙意見を出しながら慎重審査を行った。		
反対意見	特になし		
報告日	平成 24 年 6 月 19 日 (火)	委員長署名	橋 本 保

総務常任委員会

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-05)

(1). 件 名 四万十町茅吹手地区における防火水槽設置についての要望書
(陳情 24-05)

(2). 現地調査 地元区長(山脇) 樋口総務課長・十和総合支所長立会い

(3). 委員会室 樋口総務課長

(4). 委員の意見

○厳しい財政事情であるが、是非設置すべきである。

○町単独でも年に一つの施設は設置すべきである。

○補助申請が通れば追加で設置すべきである。

今回、現地調査も行い地域事情も一定把握できた。対象戸数は4件だが住民の生命と財産を守る観点からすれば、当然採択すべきであるとの全委員の意見である。尚、樋口総務課長の年次計画等も参考に決定した。

(5) 審査結果

採択(全員一致)

(6) 反対意見

なし

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-07)

(1). 件名 青線を避難路として使用を求める陳情 (24-07)

(2). 現地調査 なし

(3). 委員会室 仲管財課長

(4). 委員の意見

○上部に防災工事をしているので、水路に蓋をするのは危険ではないか。

○緊急時には周辺土地の使用はして良いといっている。

○民事に介入すべきでない。

○側溝上のブロックや石については、既に撤去されている。

仲管財課長の説明によれば、水路に蓋をすることは、上部で砂防工事をして
いるので非常に危険であり、管理上町として許可できない。

また、青線上の車庫については、町の指導により申請し占有するなど、一定
の進展が見られている。

(5) 審査結果

不採択 (全員一致)

(6) 反対意見 なし

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-11)

(1). 件名 郵便局のネットワークを維持し、通信と金融のユニバーサルサービスをまもるために特段の配慮を求める意見書提出に関する陳情書

(2). 現地調査 なし

(3). 委員会室 全委員

(4). 委員の意見

- 地域切捨てのサービス低下は困る。
- 親方日の丸体制への懸念がある。
- 誰もが等しく受益できないといけない。

以上のような協議で、全員一致で採択とした。

(5) 審査結果

採 択 (全員一致)

(6) 反対意見

なし

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-12) (陳情 24-16) (陳情 24-18) について一括審査

(1). 件名「伊方原発の再稼動を行わないことを求める意見書」決議

「伊方原発の再稼動に反対する意見書」採択の陳情書

伊方原発の再稼動を行わないことを求める陳情書

(2). 現地調査 なし

(3). 委員会室 全委員

(4). 委員の意見

- 伊方原発は、活断層の上にあり非常に危険である。
- ストレステスト後に専門委員会で安全と出れば反対は認めがたい。
- 原子力発電は国策としてやってきた、ここでシャットアウトしたら経済が立ち行かない。代替案も考えるべきだ。
- もう少し状況を見て判断をすべきで継続扱いにしたらどうか。
- 南海地震については、縦ゆれが想定され非常に危険である。

今回の陳情については賛否両論で、危険であることは全委員が認識し将来的には脱原発の方向に向かうだろうと一致している。只、今すぐに再稼動反対にまとまることは時期尚早で、7月・8月頃までに有識者を招聘し知識を深めながら結論を出すことを確認し継続審査とした。

(5) 審査結果

継続（全員一致）

(6) 反対意見

なし

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-14)

(1). 件名「女性の政治参加をはばむ衆議院比例定数の削減に反対する意見書」

(2). 現地調査 なし

(3). 委員会室 全委員

(4). 委員の意見

- 小選挙区制への移行は、長い歴史がありメリットもある。よって現行制度と削減には賛成。
- 現行制度は、少数政党が不利になる。
- 定数削減と方法は考えるべきで、比例・小選挙区は議論したらいい。
- 女性の政治参加はもっと積極的に行うのがいい。

以上のような議論のなかで、女性の政治参加は積極的に行うべきであるが、小選挙制については、長い歴史の中で実現した経過がありメリットもある。定数削減については、地方議会でも同じ傾向にあり削減すべきである。

今回の陳情は一部採択であり、意見書は提出しない。

(5) 審査結果

一部採択（賛成 5 人 反対 1 人）

(6) 反対意見

なし

【委員会審査経過報告書】

(陳情 24-15)

(1). 件名 南海大震災に備えて、防災・減災・復興に女性の視点入れることを求める陳情書

(2). 現地調査 なし

(3). 委員会室 全委員

(4). 委員の意見

○ 女性の視点は大きいに入れるべきである。

この件については、何の異論も無く全員一致で採択すべきと判断した。

(5) 審査結果

採択（全員一致）

(6) 反対意見

なし